

パネラーとしてのコメント

羽田貴史 (CAHE, 東北大学高等教育開発推進センター)

1. 政府の役割は何か, 計画統制で大学構造改革は可能か?

- ・計画統制型でデザインを作るのか, それとも各国立大学の戦略による「個性化」でデザイン化が進行するのか。
- ・計画統制型のデザインは, 状況変化に対応できず, 実現した瞬間に陳腐化する危険性がある。変化が早くなる現代社会に適合的か?
- ・たとえば, 社会貢献を重視する学部でも, 教員人事で重視するのは「研究能力」(RIHE2007), 可変性があり, 転移する一般的能力としての研究力を重視。目的・役割に沿いすぎた制度設計は柔軟性を欠く。
- ・大学は研究を通じて獲得した知的成果を, 教育・地域貢献・技術開発などの形で社会に移転する機関である。過度な機能・役割分化を機関単位に当てはめることは, 大学の死滅を招く(おろかな王様, 毎日黄金の卵を産む雌鳥のおなかを割いてしまったら……)
- ・国立研究所の役割は? 多様なセクターの協業関係

2. 財源提供者としての政府の役割, 基礎的経費と特定目的経費の算定と配分のあり方。

- ・研究のための特定資金と教育のための特定資金は機能が異なる。新たな教育プログラムは, 開始の2年前には告知され, 始めたら4年間は継続しなければならない。

- ・教育の質的向上の観点で大学の組織改革とどのように接点が生まれるのか？

- ・根本的には, 大学の自由裁量経費の確保が重要。機関の個性化と機関内の不均等を調整する財源。

- ・基礎的経費を教育経費ベースに算定する提案は有力。田中報告のオーストラリアの事例はそのひとつ。ただし, 総合研究大学は強力な反対者になるだろう。

- ・しかし, オーストラリアも一気に今の形になったのではない。試行錯誤と利害関係者の公開討議による積み上げの上に立つもの。日本においてもっとも欠けるのはこの「公開性・透明性」と試行錯誤によって発展させる行動様式。

3. 経済発展に対して大学はどのように寄与するのか。

- ・過去だけでなくこれからをどう考えるかという畠中指摘は重要。
ただし、イノベーション、産学連携モデルが強すぎないか。
- ・教育を通じた人材育成(専門能力の形成, 一般的学習能力)による寄与, 人的資本論は OECDも近年注目。
- ・この視点から見ると, 高等教育のアクセスの問題は重要(北欧モデル, 人的能力開発と福祉国家)